

アイヴィス創立 25 周年記念の会 ご挨拶（スピーチ原稿）

株式会社アイヴィス
代表取締役 石和田 雄二

○ 御礼のことば

☆ { ご臨席賜り、誠に有難うございます。 }

本日はお忙しい中、「アイヴィス創立 25 周年記念の会」にご臨席賜り、誠に有難うございます。

長年に亘る皆様から頂いたご支援、ご指導により、弊社は、本日ここに創業 25 周年を迎えることが出来ました。心から感謝と御礼を申し上げます。

25 年間の中でも、直近の 5 年は特別な想いが有りますが、記念の会の初めに起業からの 25 年を簡単に振り返ってみたいと思います。

○ 創業のころ

☆ { ソレキア様と日機電装様にお世話になった。 }

創業では友人の沖、そしてソレキア様と日機電装様にお世話になりました。創業の 88 年は昭和の最後の年でバブルがピークアウトした年、ダウンサイジングが本格化、UNIX マシンが普及を始めた時です。時代の変化を感じながら、友人に背中を押されて会社を立ち上げました。富士通ディーラー、ソレキア様の事務所の一角を間借りし、翌平成元年には、鷺沼に開発センターを開設、会社の基礎が出来ました。

○ その後の IVIS

☆ { 20 年間は比較的安定して成長した。 }

創業からの 20 年間は、失われた 20 年と言われる大変な時代でした。

93 年のバブル崩壊不況、98 年の金融不況、02 年の世界同時不況、ほぼ 5 年単位に 3 回の不況の洗礼を受けました。

しかしながら、この時期は ICT サービスの大きな変革期に当り、不況と同期を取る様に ICT サービスの新たな需要が生まれた時代です。当社も、創業から 10 年はエンジニアリング ICT 分野の成長期に育てられ、少し遅れてインターネットが登場、職場の情報活用環境が大きく変わり、ネット基盤やシステム再構築の仕事が伸び、比較的安定した 20 年でした。

○ 環境激変に学ぶ

☆ { リーマンショック以降の経営環境は想像を超える激変 }

流れが変わったのは5年前です。業績の急落で必死に未来を模索しました。世界金融不況の影響が深刻化、ICTサービスからも需要が蒸発し、当社も、30億円を超えていた売上が26億まで落ちました。需要が蒸発して気づいたことは、自ら立て直れない会社の弱み、独創性と競争力ある専門技術の必要性です。しかし、この時代こそICTの大変革期、チャンスが無限に広がっています。

○ 新しい可能性の芽

☆ { 創業の原点、Vision Systemなどの専門技術が未来を拓く }

当社は中小企業、想いはあっても戦略的な技術投資が出来ません。そんな中、当社のSEたちは、時代の転換期の節々で業務を通じて先端技術を身に付け、技術的な脱皮を繰り返しながら会社の成長を支えてくれました。今回も又、現場は夫々の課題に挑戦、困難な中で未来を拓いてくれました。その一つがVison System、創業の原点でもある画像認識技術の応用です。自動走行車の制御にも使われている応用技術です。25周年に当たり、本日、業務成果3編を表彰、ご紹介させていただきます。

○ 新たな四半世紀への再出発

☆ { 25年は通過点、30年を目指して挑戦を続ける }

当社が背伸びしつつ25期黒字、特段の苦勞もせず今日を迎えられたのは、ICTサービスの変革期という時代の運に恵まれたのと社員の努力と共に、何よりも、皆様方に活躍の場を作って頂いたからです。これからも変化に適応、皆様の下で新たな未来を拓いて参る所存です。

○ おわりに

☆ { 小宴をご用意しましたので、お寛ぎ頂き、ご歓談下さい。 }

本日はお世話になった関係者の皆様への感謝の集いでもあります。ヴァイオリン・コンサートとささやかな立食パーティをご用意しました。お寛ぎ頂き、ご歓談頂ければ、幸いに存じます。

ご列席頂いた皆様方に改めて感謝し、私の挨拶と致します。(おわり)